

2020年3月19日

在校生のみなさん

神戸大学附属中等教育学校

春季休業中の生活と学びについて

突然の休業となってからついに3回目の週末を迎えました。それと同時に明日からは春季休業に突入します。16日と17日の“登校可能な日”に多くの方の元気な姿を見たり、話をしたりすることができたので、私たちも少し安心しました。校舎やみなさんも無事なのにおよそ3週間にもわたって(みなさんと)会うことができないということは、阪神淡路大震災や東日本大震災の時ですらもなかったような“あり得ない事態”ではないかと思えます。4月16日に予定されていた「全国学力・学習状況調査の延期」は決まりましたが、私たちは4月8日の始業式や入学式の準備を進めています。学校のない(部活動のない)春季休業にみなさんも戸惑うことが多いと思いますが、新年度に良いスタートをきるために“やるべきこと”に取り組みつつ、忙しくて普段できないことにも挑戦し、始業式には心身ともに成長したみなさんに会えることを期待しています。

とは言っても、正直な話をすると「予想外のことが起きるかもしれない」という意識も心のどこかにあるので、私たちも不安な気持ちになることがあります。みなさんも「今のところこうなると聞いているけど、学校からの連絡(首相からの要請等)で変更になる可能性もある」という不安定な状況なので、しんどくなったり、イライラしたりすることもあると思います。とくにネット上には根拠の明確でないものも含めて非常にたくさんの情報があるので、それらに毎日さらされていると不安な気持ちが強くなることもあると思います。生活面でも、いつもとは違う環境の中で睡眠習慣や食習慣が乱れたり、運動不足によりストレスが発散できないなど生活の習慣が安定せず、不安を抱えながら生活をしているのではないかと思います。

この間も書きましたが、もしお家の人に相談できないようなことがあれば、電話や緊急メール kuss-emergency@edu.kobe-u.ac.jp などでもかまわないので学校に相談してください。もちろん、生徒相談日を利用してもらってもかまいません。健康上の不安がある場合も生徒相談日に健康相談を保健室で養護教諭が受け付けますので、緊急メールで事前に知らせてください。また、スクールカウンセラーによるカウンセリングを実施することも可能です。休業が長期化し、気になっていることや悩んでいることなどがあれば一人で抱え込まず、何でも相談してください(相談をしたい場合は、予約専用メールアドレス kuss-sc@edu.kobe-u.ac.jp で事前に予約をしてください)。心理的なサポートを含めみなさんの健康面のサポートをしていきたいと考えています。

SNS等を利用する際には、個人情報の流出・デマの拡散・友人関係のトラブルには十分に注意してください。少し落ち着いてきましたが社会全体が少し殺伐としている(寛容さや余裕を失っている)ように思いますし、お友達も普段とは違う生活で気持ちが落ち込んでいることもあると思うからです。

さて、先週、それぞれの学年に対して各教科から春季休業中の課題が発表されましたが、順調に進めることができているか。課題に取り組む際に大切にしてほしいことは“取り組み方(取り組む姿勢)”です。「課題だからやる」という姿勢ではなく、「課題を通して学ぶ」という姿勢で取り組んでください。同じ場所で同じように学んでも結果は人によって大きく異なる場合もありますが、これはそれぞれの人の“適性(能力)の違い”というよりもそれぞれの人の“考え方(姿勢)の違い”による影響が大きいです。同じ課題に取り組んでいたとしても、意味がない(学ぶべきことはない)と決めつけたり、作業としてこな

すだけだったりすれば、本当に意味のないもの(意味のない時間)になってしまいます。簡単なことは学びが少なく、難しいことは学びが多いわけではありません。課題への取り組みを通して“自らの課題”に気づき、自分にとって意味のある学びを実現してください。目の前の時間や目の前の課題など、やるべきことにしっかりと向き合ってください。なお、生徒相談日に質問に来てくれても良いので、課題に取り組む過程で1人では解決できない(考えても調べても解決しない)問題については、質問ができるようにまとめておいてください。ただ、生徒相談日に質問する場合は、申し込む際に教科や質問の内容を(簡単に)伝えてもらえると私たちも慌てずに済みます。協力してください。

学校から在校生のみなさんにお伝えしたいことは以上です。では、また、学校で会いましょう。

次のページからは6回生の先輩から届いた合格体験記を掲載しています。本来なら教室に掲示する予定だったのですが、今回はこのような形でみなさんにお届けします。コツコツと努力を重ねて、部活動や学習の両面で大きく成長した先輩の1人です。大学進学を迎える7回生だけでなく、すべての学年のみなさんにとって参考になると同時に学習に立ち向かう勇気をもたらえる合格体験記だと思います。とくに「苦手科目の克服法」や「得意科目の伸ばし方・作り方」、「部活動等と学習の両立」については、どの学年の人にもしっかりと読んでほしいなと思っています。

「後悔しない受験を」

6回生 一橋大学商学部

①第1志望の決め方・第1志望を決めた理由・第1志望を決めた時期

高校2年生の夏にオープンキャンパスへ行き、大学に通う学生の雰囲気や校舎のレトロ感、少人数のゼミにひかれたのがきっかけで一橋大学を意識するようになりました。私は文系であるにもかかわらず、国語と英語が苦手だったので一橋大学商学部の国語の配点の低さに驚き、ここしかないと思うようになりました。(英語 250 点・数学 250 点・国語 125 点・社会 125 点)

②苦手科目の克服法

とにかく国語が苦手で、センターの模試では常に6割から7割だったので国語が足を引っ張り目標点に達したことはありませんでした。センター直前期のセンタープレテストで国語が200点中100点という驚くべき点数を取り、さすがに焦った私は古文単語と漢文の句法の問題集を何度も見返し、現代文は毎日読むようにしました。なんとその甲斐もあってセンター本番では初めて8割取りました。特に古文や漢文が苦手な人はもう一度基礎に戻って単語や句法を確認することと問題に触れてなれることが大切だと思います。

リスニングも本当に苦手でセンター模試で40点を上回ったことがなかったのですが、センター直前期に毎日リスニングの問題を解き、英語の音声に慣れることでセンター本番では40点を上回ることができました。一橋もリスニングがあるので英語の音声を聞きながら口に出すシャドーイングはおすすめです。苦手な人は、はじめは英文を見ながら英語を聞き、内容が把握出来たら英文を音読しながら音声を聞くといいと思います。

③得意科目の伸ばし方・作り方

私は数学が得意だったのですが、数学は基礎がなければ発展問題を解いてもあまり意味がないので、まずは青チャートなどの例題レベルを何度も解き、解法を身に着けたうえで発展の問題を解くと思います。私は初めに難しい問題ばかりを解いていたのですが結局不安になり、青チャートに戻ったので基礎を大切にすべきだと思います。また日本史が得意だったのですが、日本史は流れがつかめると単語も覚えやすくなるので、教科書なども歴史の流れを意識しながら読むことをお勧めします。

④夏休み前までの学習・夏休みの学習・冬休みまでの学習・直前の学習(3月も含めて)

〈高2～高3〉

部活に全力を注いでいたのであまり勉強はしていませんでしたが、定期テストはなるべく良い成績をとることを心がけていました。また塾の英単語テストなどはなるべく満点をとれるように頑張りました。それ以外はほとんど勉強しませんでした。でも受験が本格的に始まる前に部活をやりきったことで、悔いなく受験勉強を始めることができました。

〈高3春～夏休み〉

部活が終わって受験勉強が本格的にスタート。この時期は長時間勉強することに慣れるために塾の自習室を利用して勉強しました。数学は青チャートを1周、『文系数学のプラチカ』を1周しました。(プラチカは本当に難しいのでこの時期にやる必要はないと思う。それよりは基本例題を完璧にしたほうが

いいと思う。) 国語は古文単語の暗記と塾の講習のみ。日本史は塾の論述講習のみ。

英語は『Vintage』を2周と塾の講習のみ。(塾は復習と予習を大切に)一橋大学の判定は常にE判定でした。

<夏休み>

毎日最低10時間は勉強しました。基礎固めを心がけていたので、数学は青チャートをもう1周と『文系数学のプラチカ』を1周しました。国語は古文単語と漢文の単語の暗記、夏期講習の復習をしました。日本史は一問一答が苦手だったので教科書や『実況中継』を読みながら重要な単語を手で書いて覚えていました。この時に日本史が楽しくて好きになりました。英語は単語や英文法の暗記をして、英文を毎日読みました。私は『やっておきたい英語長文700』と夏期講習の参考書を利用しました。英文読解力を上げるためには毎日継続して読むこと、音読することが大切です。(音読は英語の流れをつかめるので速読力やリスニング力の改善にもつながります。)英語は少しやらないだけですぐに読めなくなってしまうので、なるべく毎日触れることを心がけるといいと思います。夏休み中に志望大学や併願大学の過去問を夏休みに1年分くらい解いておくと、自分が今どの位置にいるのか把握できると思います。また、夏休みはとにかく長いので息切れしないように適度な休憩も必要です。私は塾に友達がいたのでお昼はいつも一緒に食べてくれない話をしたりお互いの不安を打ち明けたりしていました。受験生だったのですが1日ジャニーズのライブにも行き、ストレスを発散しました。

<秋~センター>

秋からは一橋に向けて勉強を始めました。それと並行して早稲田大学の文化構想学部の新思考入試で1次試験が合格していたので2次試験にむけて勉強を進めていました。一橋に向けては15か年の問題集を解いていき、一橋オープンの模試でB判定をもらうことを目標に勉強を進めました。早稲田大学は2次試験を受けましたが結果は不合格でした。早稲田の方の勉強に時間を取られ十分な対策をしないまま一橋オープンを受け、結果D判定でした。この時期は、現役生は浪人生に比べると2次試験の対策が不十分なので、模試の結果が悪くても落ち込まないことが大切!12月からは本格的にセンター試験の勉強を始めました。センター試験の勉強で重視したのは優先順位をつけることです。点数が伸び悩んでいる教科を伸ばしたほうが合計点は上がるので、配点の高い国語や英語、苦手な地理を重点的に勉強しました。センター本番の点数は自己ベストでしたが、センターリサーチはD判定でした。

<センター後~2次試験>

最後のセンター試験の年で浪人はしたくなかったので、一橋に出願するかはかなり悩みました。でも高校2年生からずっと行きたいと思っていた一橋を受けないことほど後悔することはないと思ったので、一橋を受験することに決めました。また一橋は2次試験の配点が高いのでセンター試験が多少悪くても2次試験で挽回できることもできる大学だったので可能性を信じて一橋を受ける決心をしました。2次試験に向けては15か年の問題集を全教科やりました。特に英語と数学は配点が高かったので優先的に勉強しました。2次試験本番ではあまり手ごたえがなかったので帰りの新幹線で泣きました。そしてあまり身が入らないまま後期試験に向けて勉強を始めました。

<合格発表>

不合格を確信していたので合格発表のサイトは見ずに携帯を放置していました。突然電話がかかってきて姉が合格していることを報告してくれました。無意識のうちに涙を流していました。

⑤部活動等と学習の両立

私は両立できたかといわれると、部活動8学習2くらいでしたが、一番大切なことはやりきることだと

思います。部活動をやりきった達成感があれば勉強にベクトルを変えても頑張ることができると思うので、部活で忙しい皆さんも今は部活に全力でいいと思います。

⑥後輩に伝えたいこと

タイトルにもある通り後悔しない受験をしてほしいです。もし私が一橋をあきらめて別の大学を受けて合格をもらっても、きっと一橋へ行きたかったという思いは心の中に残り続けていたと思います。一橋を受けて不合格をもらっていたとしても「私は一橋を目指した」って胸張って言えたと思います。だから自分が行きたいと思っている大学を受けるべきだと思います！あとは最後まであきらめないことです。私は模試でC判定を取ったのは1回で常にD判定かE判定でした。でも模試は所詮模試だと思って、あまり気にしませんでした。常にポジティブに自分はきっと合格できると思って勉強を続けてほしいです。

⑦お勧めの参考書・問題集（使い方も含めて）

<数学>

- 青チャート

全ての例題が完璧に解けるまで何周もするのがおすすめです。何回も解いていると発展的な問題でも解法が思いつくようになります。

- 文系数学のプラチカ

一橋大学の数学は文系数学の中でも難しい方だったので、難易度高めの問題にチャレンジしたい人はおすすめです。かなり難しいので夏休み後半くらいからやるとちょうどいいと思います。

<国語>

- 漢文のヤマのヤマ

2次試験で漢文がいない人はこの1冊を完璧にするだけで充分だと思います。

<英語>

- vintage

語法やイディオムを固めれば二次レベルの文法は完璧。ポイントはミーハーになってボロボロになるまで使い込むことです。

- やっておきたい英語長文シリーズ(河合出版)

書店ではつい通り過ぎてしまいそうな簡素な外見をしていますが、これが実は超良問集です。単語や文構造の解説も充実しているのでお勧めです。

<日本史>

- 石川昌康 日本史B講義の実況中継

センター・私大から2次試験までこれだけで対応できると思います。要点もまとまっていて、年号の語呂合わせもあるので暗記科目が苦手な人におすすめです。